

# あおばっ子ゆうゆうプラザ

会場	開設	令和7年度の活動状況				
		参加人数			開設期間 曜日・数	講座数
あおば 小学校	2008.6	子ども (参加率)	実施委員	サポーター	6/26～2/19	8
名称の由来 青葉のように 素直な子ども達		130人 (63.8%) 全校児童数 196人	12人	30人	木曜 14日 日曜 1日 (公開講座) 合計 15日	

## 1. = 「18年目：体験を通じて地域の大人とつながりたい」 =

実施委員長 不破 康史

子どもたちの間で「体験格差」が広がっている？私はこの言葉の響きが嫌いです。

私たちの青葉小地区においても、少子高齢化が着実に進んでおり、地元自治会も夏祭りなどの行事ができなくなり、子どもたちも地域の大人とつながる機会が少なくなっています。ゆうゆうプラザは子どもたちが育つ環境として、大切な地域のあり方だと思っています。ゆうゆうプラザの活動に、多くの大人が理解を示し興味を持つことで、子どもたちを見守ったり、気にかけてくれる大人が増えると思っています。それを願って18年目を取り組んできましたが、十分な答えを出すことができませんでした。

2年後には、20周年という節目を迎えることになります。ゆうゆうプラザを通じて「本当に有意義な体験をさせてあげたい、もっとやりたいことを見つけて欲しい」をテーマに取り組んでいきたいと思います。

## 2. = 『地域の輪が育む、子供たちの「できた！」』 =

青葉小学校長 田中 幸太郎

青葉小学校は、豊かな「地域の教育力」に支えられています。その象徴的な活動である「あおばっ子ゆうゆうプラザ」には、今年度も130名の児童が元気いっぱいに参加しました。本活動が継続できているのは、多大なるご尽力いただいている実施委員の皆様、そして温かく見守ってくださるサポーターの皆様ののおかげです。心より感謝申し上げます。

子供たちは、地域の方々との体験的な活動を通して、教科書だけでは得られない貴重な学びを得ています。多様な大人と接することは、コミュニケーション能力を自然な形で育ててくれます。また、何より活動中の子供たちの表情は輝いています。「楽しい！」という感動や「できた！」という成功体験は、自己肯定感を高める大きな糧となります。

この自己肯定感の高まりは、自分も周りも幸せにする「ウェルビーイング(心身の幸福)」の向上にも繋がります。地域全体で子供たちを育むこの活動に、温かいご支援をいただいた皆様、本当にありがとうございます。

### 3. 講座紹介と活動中の写真



人気の絵手紙



おりがみ人気は不変



新講座のボッチャ



将棋好きはいます



開校式

### 4. 成果と課題

☆多くの児童が参加してくれた。

☆屋外活動の中、保護者見守りボラの協力で事故無く活動できた。

★テンポラリーサポーターの定着化

★少人数講座の見直し、活性化

★スタッフの高齢化に伴う後継者の発掘が進まず



大好きドッジボール



ティベース



元気一杯サッカー



いろいろな遊び